

地域づくりステップアップ研修会

ひろがる・つづく活動のコツ



地域づくりの本質を見つめ直す

1月21日(水)に地域づくりステップアップ研修会を開催しました。地域づくりの第一線で活躍している皆さんの更なるステップアップを目的として開催しています。今回は、平成23年度から上毛町地域づくり活動成果発表会の講師として毎年ご参加いただいている「ふくおかNPOセンター」代表の古賀桃子さんを講師にお迎えし、「ひろがる・つづく活動のコツ」をテーマにご講演いただきました。また、講演会の後半では、参加者を5、6人のグループに分かれて、「活動を継続発展する上で一番大切なこと」をテーマにワークショップを行いました。

地域の課題を解決するための方法として「88プロジェクト」が掲げられた上毛町コミュニティ計画が策定され、7年が経過します。この間「地域を誇りに思い、地域でできることは地域で解決する」という志をもった40の地域づくり活動団体、延べ6000人を超える方々が、地道な努力の積み重ねにより活動を継続し、コミュニティ計画を推進されています。

今回の研修で、今一度地域づくりの本質を見つめ直し、今後の地域づくり活動の継続発展のポイントを学びました。

いろんなサービスは誰が担っているの？

世の中を見てみると、サービスの担い手として、大きく見ると行政、企業があります。行政は住民から税金を集め、様々な生活基盤や課題解決のサービスを継続して行っている組織で、私たちの生活になくてはならない存在です。企業は色々な商品やサービスを提供しながら、更に新たなニーズに応えることを絶えず行っています。



もう一つは市民です。ここでの市民は、一定の行政のエリアに住む住民という意味ではなく、「時には自分たちでできることを手伝いませう」と自発的に活動する個人という意味です。ボランティアとも言い換えられます。市民の人は行政や企業が課題解決に乗り出せていない所に率先して動くと言う点で、これからの時代にはなくてはならない存在だと思っています。

近年の取り巻く環境や課題

「コミュニティの崩壊」

近年はいろいろな気になる課題(虐待、犯罪、大気汚染、多文化共生など)がありますが、地域コミュニティの崩壊もそのひとつです。

上毛町はそうでもないかもしれませんが、全国的に自治会への加入率がどんどん減っています。特に40歳代以下の加入が減っています。今から50年前は地域活動(自治会)に参加したという人が8割以上でしたが、2007年では真逆に「参加しない」ときどき参加する人が8割という状況です。

しかし、住民の中には、自主的な気持ちを持って、さまざまな地域課題の解決に取り組む動きがあり、行政もそういう人と連携していく動きを高めています。上毛町でもコミュニティ計画の88プロジェクトの活動を

支援することを通して、色々な団体との関わりを持つている印象があります。

また、企業においては、社会的責任(CSR)：コーポレート・ソーシャル・レスポンス(ビルディ)という考え方が注目されています。企業は儲ければかり気にするのではなく、地域に恩返しをする責任があるという考え方がです。東日本大震災以降、地方都市の中小零細企業などが熱心に地域貢献がなばろう、絆作りをしようとする支援の気持ちを高めています。

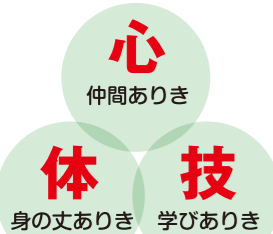
素敵な地域づくり活動事例の共通点

様々な地域課題の解決に向け、素敵な活動をしている団体が多くあります。こうした活動の共通点は、まず、素人が見て一目瞭然で活動内容がわかるということです。筑紫野市で防犯活動している循環生活研究所の青パト活動も、色々な所に自分達の姿を見せるように努力しています。また、会の名称やイベントの名称をわかりやすく表現しています。なるべく横文字がなく平仮名が多く使われているものが意外に大人にもしっくりくると言われています。

2つ目が、仲間を尊重する姿勢があることです。みんながやれることを無理なく、継続していくこと。無理が出さずなら、できる範囲の活動に切り替えるなど仲間を尊重し、思いやるのが大切です。また、リーダーは役割分担をしっかりと決めてやっています。

3つ目は資金のバランス感覚を大切にしていることです。筑紫野市の青パト活動も、財源確保について、会費を取ったり、イベントを行うなど、コツコツ稼いでいます。自主財源(会費、寄付、活動で得られる収入など)は小さくても塵も積もれば山となる感覚で確保することが大切です。補助金をもらうと、「しなければならぬ」という気持ちが出てきますが、自主財源は自由度が高いのが特徴です。

いきいきしたボラの共通点！



活動を継続発展する上で「一番大切なこと」

「活動を継続発展する上で「一番大切なこと」をテーマにワークショップを行いました。

A 支え合い、気持ち、学びです。みんなで作っていこうと気持ちが大切です。また今日のような研修の場で色々な人との交流や勉強をしていくことでより良い活動ができていくのではないかと思います。みなさんで支えあって楽しくより良い上毛町を作っていきたいと思っています。

B 連携、信頼そしてゆとり、最後に心。共通するものは、人がキーワードだと思います。心のゆとりがあることで、いろいろな考えが進んで行くと思います。最終的には心のゆとりが大事だということです。

C 活動する人が楽しくなければ活動は進みません。しかし活動団体だけが楽しむのではなく、活動を広く住民に理解してもらう、浸透させることが大切だと思います。

D 一番大切なことは信頼、思いやりです。活動メンバーはもちろん、活動させてもらっている自分の家庭も大切にしなければなりません。ここが平和でなければ楽しい活動はできないと思います。

E 楽しい・信頼・協同(一緒に)です。何をやるにも楽しくなければ継続できません。また、心をゆるしあえるような信頼関係が楽しさに通じていくと思います。

F 後継者の育成がスムーズにいかないと活動の継続が困難になります。後継者の育成が大事です。



「ゆとり」という言葉が出てきましたが、今の40代以降の世代は共働きが増えていく世代です。仕事をしながら活動に参加できるよう、ゆとりを持った活動計画を意識すると次の世代の方達が思わぬ所で参加してくれるきっかけになるかもしれません。また、意外に親子参加とすると食いつきが良かったり、ランチタイムをみんなで楽しもう！と「食」を目の前にすると参加が増えたり、楽しさ・食・ゆとりをもって活動に参加してもらえるといいと思います。

ワークショップで共通していたのが「支え合いの気持ち」それを大事にしている人ほど笑顔がたくさん出ているなという印象です。もし自分がしかめ面になっていたら鏡をみながらなぜだろう！と自分に問いかけながら無理のないように活動して欲しいです。